

日本GLP沖縄浦添プロジェクト

GLP Japan Okinawa Urasoe Project

No. 08-004-2023作成

新築
工場・物流施設

発注者	沖縄浦添ロジスティック特定目的会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	五洋建設株式会社本社一級建築士事務所 PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO.,LTD.	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	五洋建設株式会社九州支店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

「物流総合効率化法」を活用した開発プロジェクト

計画概要

本プロジェクトは、先進的物流施設の開発・運営等を行う日本GLP株式会社（以下、日本GLP）の沖縄初進出案件であり、かつ同社として初となる「物流総合効率化法」を活用した開発プロジェクトである。

沖縄県内有数の物流企業である株式会社あんしん（以下、あんしん）が、カスタマーとして1棟借りて入居する。あんしんは既存拠点の集約統合を、日本GLPと五洋建設は先進的な高機能物流施設を創出する事により、共に沖縄の物流業発展に寄与する事を意図している。

マルチテナント型の原型を維持しつつ、設計段階から施工段階に至るまで、日本GLPベースビルの考え方とカスタマー要望を調整し、3者で協議を重ねる事で利便性の高い物流施設を実現させた。

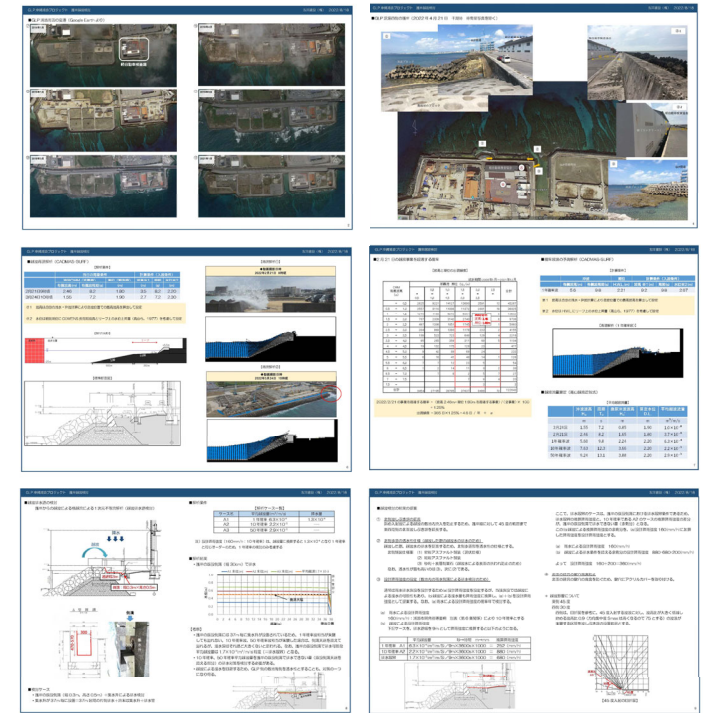


プロジェクトの課題

敷地は外海に面しており、台風の影響や潮かぶり環境下における塩害対策、強風対策が最も重要な課題であった。設計者、施工者はもとより、五洋建設の本店や土木建築など部門間で密に連携するとともに、事業主や監修者と議論を積み重ね、BCP対策を含めた高品質な物流施設の実現を目指して仕様の選定及び計画の詳細な詰めを行った。

具体的な対応策としては、耐用性の高い外壁仕様の選定、シミュレーション解析に基づく波しぶき対策壁配置の妥当性検証、北側卓越風を避け東西側に各種設備・開口を配置した強風対策、電気室や非常用発電機室を2階以上に配置した津波対策、各防錆仕様選定・耐風補強の実施等が挙げられる。

これまで物流施設の設計施工実績により蓄積した技術力・ノウハウに加え、海上土木部門（技術研究所）の協力のもと、より高度な知見を結集し、本件特有の課題を解決することができた。

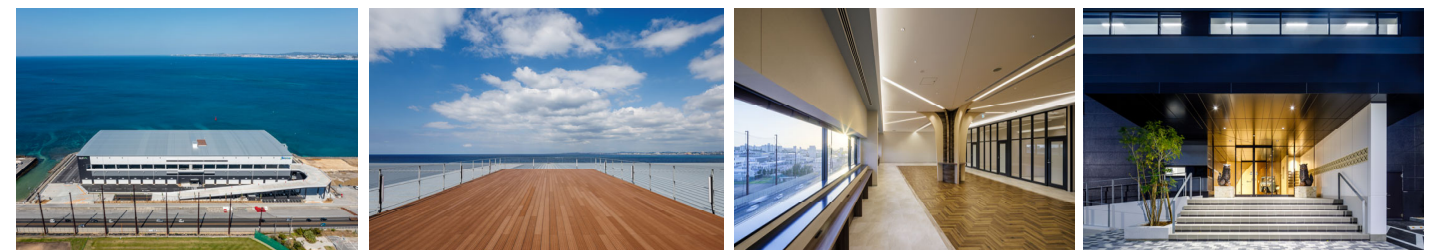


「護岸越波検討資料」より抜粋

地域性あふれる要素をモチーフとした各部デザイン

沖縄独特の豊かな自然要素であるガジュマルや洞窟、石垣といった風土の生命力あふれる荘厳なイメージを内装デザインのイメージとして取り込み、地域性あふれる印象度の高い空間を創出する事を目指した。

ガジュマルの枝葉、洞窟空間の岩壁の様相などの躍動感あふれるシルエットを、ルーバーと多面的に表す壁にて表現した。また、木漏れ日や洞窟に差し込む光を照明計画で柔らかく演出し、花ブロックの採用で沖縄らしさを強調する事を意図した。明るく開放的なカフェテリアや屋上デッキの設置など、スタッフの働く環境にも手厚く配慮している。



設計担当者

統括：利根川勝則／建築：南雄一郎、菅谷新明／構造：岩田昌三、大石達郎／設備：小池武徳、高橋秀之

建物データ

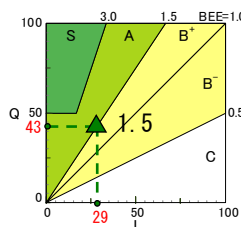
所在地	沖縄県浦添市
竣工年	2023年
敷地面積	28,905㎡
延床面積	61,935㎡
構造	鉄骨造
階数	地上4階

省エネルギー性能

BEI (通常の計算法)	0.49
BELS	★★★★★
ZEB Ready	

CASBEE評価

Aランク
BEE=1.5
2021年度版 第三者認証



主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2.2 耐用性・信頼性（設備の信頼性（BCP対応：波しぶき・津波・強風対策））
- Q2.3 対応性・更新性（階高の確保、フレキシビリティに配慮した設備スペースの配置）
- Q3.2 まちなみ・景観への配慮（沿道の緑との連続性に配慮した植栽計画、地域性のあるデザインモチーフや素材の採用）
- LR1.3 設備システムの高効率化（高効率設備機器の採用）
- LR2.1 水資源保護（節水型器具の採用）
- LR3.3 周辺環境への配慮（歩行者通路やトラック待機場所の設置）